
遊戯王GX 転生者は我が道を行く

大禍時悪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 転生者は我が道を行く

【Nコード】

N8087Z

【作者名】

大禍時悪

【あらすじ】

普通の会社員であった黄衣王真おういおうましかし通勤途中、神様のうっかりにより死んでしまう。

そんな事実を聞かされても飄々と死を受け入れる王真に神様は居た堪れなくなつたのか、お詫びとして第二の人生を歩ませようとするのだが、その人生の行き先は……遊戯王GXの世界であった……。

製作者の大禍時悪です最初に私には文才が一切ございませんしタ

クテイクスも拙いにも程があるほど酷いですが、そんな事を許せる方はどうぞご鼻屑に……オリカについてはアニメで出てきた物以外は使う予定はございません。

禁止制限等は9月現在の物を規定にさせていただきますが、改訂の度にデッキを弄って行きたいと思えます。

プロローグ

こんにちは、黄衣王真です。何故皆さんに挨拶しているのかと言うと、只今絶賛死亡中です

幽体離脱的な事になっていきます恐らく自分であろう血まみれで首が無く臓物が飛び出してミンチになっています。

凄惨な状況だねこれ、自分の体だと思いたくないねでもまあ諦めるしかいさ、だって自分の頭が向こうの方に転がってるんだもの、ああ……俺の原付が高かったのにフレーム粉々じゃん。や、もう乗れないから別にいいといえはいけど……。そんなことより凄いな吸水コンクリート、俺の身体から流れ出る血液がどんどん吸収されるよもうすぐ失血するんじゃないかな？ や、もう死んでるから失血しても問題はないんだけどね。

「あゝモノローグの途中で申し訳ないのだが……ちょっといいかい？」

気付かなかったけどいつの間にか白髭で白髪のお爺さんがいらっしやいました。ああお爺さんと言っても俺のお祖父さんじゃないよ

「ああ、はいなんでしよう？ て言うか何故に俺の姿見えてんのか死んでるはずだよね俺」

「うん間違いなく死んでるよ、だってワシが間違っただけじゃなかったし」

「あれ？　じゃあもしかして俺を挽いた10トントラックの運ちやんなの？」

「何でその方向に考えが行くのかとても疑問だし第一にひくの漢字を間違えてる気がするのだがのう……ところでワシが神様じゃ」と言ったらどう反応してくれる？」

神様？　がそういうと王真はジツと神様？　を見つめてからふむむむと小さくうなずく。

「ああスミマセン神様って皆の想像した通りの長い白髭の老人なんだと、今しみじみと思ってました死んでからこんな体験が出来るとはちょっとしたラッキーですね」

「死んだのにラッキーっていう君は変わってるねえ」

神様は若干引き気味でなおのほほんと王真に対して言った。

「ああ気にしませんよ変わってるってよく言われますし。それで神様が俺を殺したってどういうこと？」

「その事なんじゃがな、今日死んでしまう人間にチエックをつけていくんじゃけれどもね、ちょっととうとうとして間違えて君の名前にチエックうつっちゃったんじゃよ少なくとも後60年は生きるはずじゃったのだけれども……」

神様はちょっと気まずそうにこっちをチラチラ見ているが王真は気にせず。

「ああ……まあ仕方ないですよ誰しも間違いはありますし気にしませんよ、てことは俺って地獄に行ったりするの？ お世辞にも天国に行けるような良いことなんて全くやってないんだけどさ」

「加害者のワシが言うのもなんなのじゃがまずは怒ったりはしないのかい？ それに目をつけるところが違いすぎないかの、普通なら残りの寿命の分のどうするんだとか、まだやり残した事があると憤りをぶつけてくるのこのう君は随分ドライなんじゃな」

「ドライ……と言うべきなのか単純に今現在こうして死んでいるので受け止めるしかないと言うのかなんと言うか」

王真は若干戸惑いながらも答えるが表情は笑っている、正直薄々気付いてはいる自分が同じ年頃の人よりも冷めた事しか考えられないことくらいは。

「じゃあ聞いてみようかな？俺の寿命おおよそ60年どうします？まあ生き返れる訳では無いですよね、ほら元の体は首が飛んで臓物が挽き肉みたいにミンチになってるし」

「ああその事なんじゃがの生き返る……すなわち転生じゃな、この世界に転生するのはまず不可能じゃな。死んだ人間の情報を引き継いだ人間を作るとじゃなくつかの矛盾が生じてしまうのじゃよ詳しくは秘密じゃがな、しかし……別の世界なら可能じゃな存在しないものを一から作るだけじゃからな」

なんか一から作るだけとかものすごいことを言ってるけど多分神様だからできるんだろう。

「別世界と言うとパラレルワールド的なものかなそれならそれ

で……」

「ふむ……それでもよいが辛いのはお前さんじゃぞ自分は知っていても相手は知らんからのう……ところで君はアニメやゲームは好きかの？」

「ええまあ人並みには好きですね」「いかんとは思ったのじゃが少し記憶を見せてもらったが遊戯王というアニメをよく見てるようじやな」

「まあ好きですねでも勝手に記憶みんなや神さんよ……遊戯王かいいですね世界としてはGXの世界がいいですけど決めるのは神様ですけどね」

「いやいや構わないよ出来る限りの我儘は聞いてあげるつもりじやよ」

「ああそれではとりあえず運動能力と頭脳はある程度もらえると嬉しいですね、今まで出たカードを各10枚ずつ現時点の俺のデッキとこれから出るカードを発売日に各10枚づつもらえると嬉しいですね。」

「ふむそれくらいなら全て叶えられそうじやわい遊戯王GXの世界の一番最初入学試験の一週間前に目を覚まさせるようにしよう、その世界の前情報を脳の中につ込んでおくからの後は困った時は連絡できるようにしておこう正し無茶なお願いは禁止じやよ……すぐに転生を始めるそれでは良い第二の人生を」

「ちよつとタンマ最後に一つ何から何までありがとうございましたまたいずれ声を聞くと思います」

そして俺の黄衣王真は第二の人生を遊戯王GXの世界にて始めることになった。

デュエルアカデミア入学試験

おはようございます、黄衣王真です。今日覚めましたと言っても意識的な意味ですけどね、転生らしいと言えばそうですな生まれるところから始まりました。

しかし生まれたのは俺ではなく、俺の性格から趣向までまるまる模倣した俺らしい。ただし転生の事は一切知らないみたいだが……つまり自分の行動を別の人として見てる感覚だね。

そして時は経ち神様の宣言通りデュエルアカデミア入学試験一週間前に本体と意識が合体した様です、携帯を確認すると家族のアドレスとさりげなく神様の連絡先も登録されていた。すかさず神様にコールする。

「おはよう神様一生味わえないとてつもなく気持ち悪い体験をありがとうクソツタレ」

そして返事も待たずに通話を切るこの日に神様からの贈り物が届いていた。デッキを取り中を確認した後デュエルディスクを装着エクシズモンスターとシンクロモンスターが反応するかを確認する、勿論揃える所から、見事成功しかも原作アニメと同じエフェクトまでついてスツゴい派手ゾクゾクしたね。ただあまり広くない自分の部屋でエクシズ召喚したため家がかなり揺れた。興奮してたからそんなことにも気付かなかったが家族が俺の部屋を扉の隙間から覗いていたのを。

「おはよう兄さん姉さん驚いた？ごめんねちょっとテンションが有頂天に……ね」

とりあえず兄姉を部屋の外に閉め出して着替えてから台所に立ち食事の用意、用意していると兄が一人と姉が三人いつの間にかテーブルついている。黄衣家の名前には皆王の漢字が付きます、末っ子の王真こと俺、長男の王我兄さん長女の王華姉さん次女の王姫姉さん三女の王世姉さんみんな仲の良い兄たちですが皆ブラコンですどうしてこうなったのだろうか。まあそれを差し引いても良い兄たちですが。

「王真くトースト二枚ねチーズのつけてね」

「王真さんご飯とお味噌汁を」

「王真ちゃんシリアルと牛乳はまだなの」

「王世姉さんオーブンの中にあるから王姫姉さん、よそつてあるから持って行って王華姉さんもね王我兄さ……」

「大丈夫だ王真私は自分で用意したしかしな王真……朝からチャーハンはないんじゃないか」

「いいじゃないか昨日のが余ってて勿体ないんだから」

そう姉さん達の食事を用意しつつチャーハンを作っていた、なんで姉さん達は俺に頼りきりなんだろうかデュエルアカデミアへの入学が確定したら姉さんはどうするんだろうか。

「ところで王真、入試の方は大丈夫なのか？確か受験番号は1111番じゃなかったか？私たちの弟だからなんの問題も無いとは思うがな」

「兄さんその話は止めてくれ考えてる途中で寝ちゃったんだよ、それに買い被りすぎだよ何とかなるとは思ってるけどね」

そんな他愛もない話をしながら一週間は過ぎてゆく、と言っても兄さんや姉さんに試験用のデッキのテストをしてもらってたんだけどね。

そして試験当日。

「だあああざっけんなコンチクショウ」

そう叫びながらローラーブレードで自転車も絶句するほどのスピードで疾駆するそうしないと非常にまずいし怒りのやりどころも無い。

「ちくしょうなんで事故んだよ仕方ないけどさ！事故起こした奴犬に噛まれるホントに！」

電車の事故今思えばたしか主人公の十代も事故で遅れたはずだがそれを覚えていないのは自分の落ち度だ仕方がない。10分程走ると受け付けが見える、階段を飛び越え叫ぶ。

「「まったあああ」

誰かと声が被るだが王真は知っているので気にしない。

「受験番号110遊城十代セーフだよね？」

「受験番号111黄衣王真まだ間に合いますよね！」

ほぼ同時に言い放ち十代がこちらを向く、それが俺と十代のファー

ストコンタクトだった。

「お前も遅れたのか俺は遊城十代よろしくな」

「ああ電車が遅れてな全速力でこっちに来たのさ俺は黄衣王真よろしくな十代とりあえずさっさと行こうこれ以上遅れるとまずい気がするからな」

……

……

……

「おおやってるやってる」

「試験中だからな……見たところ一桁台の連中だな」

見下げると珍しい白ラン姿の三沢がブラッドヴォルスに破壊輪を発動し勝利を収めた瞬間だった。

「あの一番見事なコンボだったな」

十代が独り言の様に呟く王真が反論しようとしたら十代の隣の水色が言った。

「そりゃそうさ受験番号一番つまり筆記試験第一位の三沢君だよ」

「むう……あれだけでコンボと言うのか、ただトラップを使っただけじゃないか」

「複数のカードを組み合わせて使用するのがコンボじゃないか」

「そういう解釈にしておくよ十代」

「君たちも受験生？受験番号は？」

「ああ俺は110番こっちは111番だ」

「でも百番台のデュエルは一組目でとっくに終わってるよ」

「おいおいマジかよ水色受け付けでもセーフだったんだぜ理由も理由だ受けれるだろう」

『受験番号110番遊城十代君』

「よし俺の番だ」

意気揚々と階段を降りて行く十代そんな背中に何となくで声をかける。

「十代、頑張れよ」

「おう任せとけ」

「全く俺はおまえに何を任せたんだったの」

「ねえ君さっきの人と知り合い？」

「いや今さっき出会ったばかりだぞ水色頭」

「さっきから水色水色って僕の名前は丸藤翔だよ」

「おつとすまない名前がわからんから身体的特徴がそれしかなかつたんだ重ねてすまん翔」

「いやそんなには怒ってないからいいよそれより君はいいの？」

「いい？何がだ？デュエルなら十代の次にできるだろつさ恐らくはクロノス教諭のアンティークギアデッキだろつさ」

会場を見ると邪心トークンをリリースして古代の機械巨人をアドバンス召喚している所だった。

ふむ流石はソリッドヴィジョンだ古代の機械巨人のプレッシャーが半端じゃねえな泣く子が余計に泣きそうだな……お、フェザーマン殴り飛ばしたな。

「ヤバイな貫通のせいでライフが半分持ってたれたな次教諭がモンスター引いたら終わるな」

「そんな掟破りモンスターじゃないか！」

「掟破りなあ……まあああいうやつがこんなところで終わる訳がだろつさ」

そう王真が言うつと翔がこれでもかと言わんばかりに反論してくる。

「攻撃力3000に魔法、トラップも使えないそれに貫通持ちだよ無理に決まってる攻撃力3000を超えるモンスターなんてそう簡単に出せるもんか！勝てるわけないよ」

「……そう声を荒立てんな何も完全に使えないわけじゃないダメー
ジステップまでだ。モンスター効果までは防げない効果で潰せばい
いそれにまだアイツは諦めた訳じゃないさ見てりゃわかる何とかす
るぞ」

ビルの上に立つフレイムウィングマンが炎を纏って古代の機械巨人
に突っ込み見事に勝利、崩れ落ちる巨人の残骸に潰される教諭。

「ホントに何とかしちゃった」

「だろ？だから言ったじゃないか何とかするってさ」

「ようお疲れさん良いドローを見せてもらったよ」

「王真見ててくれたか俺のデュエルをさ」

『受験番号111番黄衣王真君』

「ああしつかりとな……さて俺の出番だなそうそう面白い物を見せ
てやるからしつかり見てろよ」

と言い王真会場に向かいながら後ろに手を振るディスクについてい
るデッキを取り確認するとある事に気がついた。

やべえデッキ間違えたエクシーズデッキを使う予定だったのにある
うことか試作デッキ持って来ちゃった。前世ではある程度戦えるレ
ベルまではいけているがまだまだ勝率が心許ないだがライフ400
0だ8000じゃないいけるはずだ。

「二人目のドロップアウトボーイなのーネ今度こそ叩き潰して差し

上げる〜ノデス」

「叩き潰せるならどうぞただし俺はなかなかやるぜ？」

「減らず口を叩けるの〜も今の内です〜ノ」

それを聞き王真はニヤリと笑いディスクにデッキをセットそして展開教諭はそのままデッキをシャッフルしているアンティークギアのまままで来るらしい

「さあデュエルだ」

「私のターンドロローニヨ手札からテラ・フォーミングを発動その効果により、歯車街を手札に加えそのまま発動するの〜ネ」

まずい歯車街が入ってやがるのか昔のカードだから完全になめてたそれにリアル的にも歯車街はアニメが終わってから出たはずだ。

テラ・フォーミング 通常魔法

自分のデッキからフィールド魔法カード1枚を手札に加える。

歯車街 フィールド魔法。

「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。

このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターを1体特殊召喚する事ができる。

「更に古代の機械獣を攻撃表示で召喚なの〜ネ」

古代の機械獣 効果モンスター

攻2000/守2000

このカードは特殊召喚出来ない。

このカードが戦闘によって破壊した相手効果モンスターの効果は無効化される。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「まだまだ終わらないの〜ネフィールド魔法セット。セットしたことにより、歯車街を破壊され効果発動手札から古代の機械巨竜を特殊召喚するの〜ネ」

古代の機械巨竜 効果モンスター

攻3000/守2000

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。他の効果は使えないので割愛。

「セットされてい〜ル歯車街を発動してターンエンドです〜ノ」

クロノス ライフ4000

フィールド歯車街

モンスター2 機械獣、機械巨竜

魔法・罠、無し

「よし俺のターンドロ〜」

「俺はレッドガジェットを攻撃表示で召喚する」

レッドガジェット 効果モンスター。

星4 攻1300/守1500

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキから「イエロージャケット」を手札に加えることができる。

「更に融合を発動、手札のイエローガジェットとヴォルカニック・バレットを融合し重爆撃禽ボム・フェネクスを融合召喚」

「ボム・フェネクス？聞いたことのないモンスターなの？ネしかし攻撃力2800では我が古代の機械巨竜には叶わないの？ネ」

融合 通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「そうなんだ……まあすぐにわかりますよつと、さあ派手にいこうぜ重爆撃禽ボム・フェネクスの効果発動、1ターンに一度このカードの攻撃権を放棄してフィールド上のカード一枚につき300ポイントのダメージを与える。教諭の場にはモンスターが2体と歯車街、俺の場にはモンスターが2体よつて1500ポイントのダメージを与える！」

重爆撃禽 ボム・フェネクス 融合・効果モンスター

星8 攻2800/守2300

機械族モンスター+炎族モンスター

自分のメインフェイズ時、フィールド上に存在するカード1枚につき300ポイントダメージを相手ライフに与える事ができる。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「マンマミ〜ヤー!!」

クロノス ライフ4000 2500

「更に手札から融合回収を発動、墓地の融合とイエローガジェットを手札に加える」

融合回収 通常魔法

自分の墓地に存在する「融合」魔法カード1枚と、融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

「準備は整ったさあもういっちょ派手にいこうぜ。手札からもう一度融合を発動手札のイエローガジェットとフィールドのボム・フェネクスを融合」

そうすると会場がざわざわし始める、『せつかく出した融合モンスターを!』『ここまで来てプレイングミスかよ』『何が出てくるんだワクワクするぜ』『どうということなんだ!』

「こついう事だ現れよ融合召喚全てを燃やせ起爆獣ヴァルカノン!」

「攻撃力2300……先ほどのモンスターの方が攻撃力は上そんなモンスターでどうするつもりなの〜ネ?」

若干王真はイラッとした効果知らないのは仕方がないただ全ての価値を攻撃力で判断するのに苛立ちを覚えた。

「攻撃力ばかりが全てじゃねえさ効果も考慮して有用性を見つけ出すそれが楽しいんじゃないかねえかよヴァルカノンの効果発動、融合召喚に成功した時、こいつと相手モンスターを破壊その攻撃力分のダメージを与える！」

起爆獣ヴァルカノン 融合・効果モンスター

星6攻2300/守1600

機械族モンスター+炎族モンスター

このカードが融合召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する事ができる。
選択した相手モンスターとこのカードを破壊して墓地へ送る。その後、墓地へ送られた相手モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「さあ崩れる機械巨竜！ヴァルカノンと共にクライシス・ブラスト」

ヴァルカノンが機械巨竜に突撃して機械巨竜にしがみつくと機械巨竜が必死に振りほどこうとするがヴァルカノンは離れないそしてヴァルカノンが大爆発、機械巨竜が爆発と共に崩れ落ちクロノス教諭を押し潰す。

クロノス ライフ2500 - 500

「イエス！」

王真は拳をつきだし真上に掲げ叫ぶ。

「あり得ないの〜ネドロップアウトボーイに二回も敗北するなんて

これはきつと何かの間違いなの〜か夢なの〜ネ」

「あり得ないなんてことはないどんな事にも可能性があるその可能性を引き当てただけだ」

「すまんな十代面白い物を見せられなくてデッキを間違えたんだ」

ゆっくり歩いて十代と翔のもとに行く近くには座った白ラン姿の三沢もいた。

「いや随分面白いデュエルだったよ、融合モンスターを使い更なる融合モンスターを繰り出す戦術……」

「横から話しかけんな白ラン、まあ普段はあんな事はしないさ、あの状況ならあれが最善の策だったからな」

「いや、二番の言う通り面白いデュエルだったぜこの後俺とデュエルしようぜ王真！」

「さっき言っただろう？持ってくるデッキを間違えたんだって持ってくる予定のデッキならいくらでも相手をしてやりたいがな……それと十代二番ってのはどういうことだ？三沢の事だろ二番は、一番は……まあ自分の事だとは思っがな」

「わかる？」

「お前がそんな目をしてんだよくわかるよなあ翔」

「僕にふらないでよでもあの自信羨ましいな」

「ハツハツ八見るからに自信無さそうだからな自信なんぞ気にすんなさ俺だつて試作デッキで自信なんか皆無のヒヤヒヤもんだつたぞ」

「……あれで試作デッキ！（なの）」「」「」

「あ？ああまだ火力が若干足りないし回りも悪い、中枢のカードが来なければそれこそ負け一直線だライフ4000なんぞ塵に等しいからな」

「ライフ4000が塵だつて？一体どんなデュエルをしてきたんだ？」

三沢がかなり驚いた表情でこちらを見るそんなにおかしいか確かにこちらではライフ4000が普通だが……

「ふむ……普通にライフが一瞬で持つてかれる事なんてザラにあるそれとさっきの状態からフェネクスをもう一体追加してもそのターンで空にされるしなまあそんなデッキばかりじゃないが……その手のデッキがかなり多いそういうデッキの相手をさせていたしな。」

「まさかそんなデュエルばかりとは……あれで試作でも領ける」

「試作デッキだがもう少し弄らないと完成しないさこいつとやりたいたらまたいずれな……十代、アカデミアでなら本来のデッキを使ってやるじゃあなアカデミア会おう十代、翔」

「俺もいるぞ！」

そんな三沢のツツコミをスルーしつつ後ろに向かって手を振る……家に戻ると兄さん姉さんが気の早い合格パーティーの準備をしてい

る所を発見し手で顔を覆い溜め息をついた。

デュエルアカデミア入学試験（後書き）

どうもこんにちは、大禍時悪です始めてのデュエルシーンでしたがどうでしょうカードの説明は邪魔じゃ無いですかね次に少し別の形をとってみます。

次回予告

アカデミアについた俺達入試の時の約束の為にデュエルフィールドに行くと言丈目には因縁をつけられる。

次回遊戯王GX転生者は我が道を行くアンティードュエル激突十代VS言丈目……あれ、俺が主人公だよな？お楽しみに

アンティデュエル激突 十代VS万丈目(前書き)

少し長めの日常パート想像力が貧困なのであまり上手くは書けませ
ん。ごめんなさいほんとに

アンティデュエル激突 十代VS万丈目

おはようございます。黄衣王真です俺は今へりに乗りデュエルアカデミアに向かっている途中で皆様のご存知の通り太平洋に浮かぶ絶海の孤島です。俺は高所恐怖症なので移動中は死ぬ思いに近かったね、十代や翔が気を使って話しかけてくれていたが話の内容が全く頭に入ってこなかった。

死にかなないヘリコプターでの移動が終わり入学式に入る、毎回思うけど偉い人の話はやたら長い気がするなそんな話をどこから引っ張ってくるんだろうかまあ気にはしないけど。

てか十代に至っては眠ってたんだよな立ったまま眠れるってのは随分と器用だねうん。

正面玄関近くの石の置物に腰かけている十代と翔を発見まあ原作通りオシリスレッドだな俺もだけど。

「よう王真お前も同じオシリスレッドだな仲良くしようぜ」

「ハッハッハ是非とも仲良くしたいな同じ寮だ何度も顔を合わせるだろうしな」

「よう二番お前もオシリスレッドか」

「十代、三沢はライイエローだ制服が黄色いだろう？」

通りかかった三沢に声をかける十代、何故こいつはまずオシリスレッドかと聞くのだろうか確かに効果で言えばラーよりオシリスだ

が……

「へえ制服の色はそういう意味なのか」

「しかし君たち二人がオシリスレッドなのか不思議だな」

「なんか引つ掛かる言い方だな」

十代はとても嫌な顔をした十代の機嫌が10下がった、反面王真は。

「まあ仕方ないだろうさ試験に遅刻した上にバーンで焼き殺したとなればそう評価も高くないだろう、ビートダウン主体のデッキが多い中でのバーンだ気に食わんのだろうさ」

「王真はその評価で納得してるのか？」

「納得もなにも向こうの下した評価だ、それに納得できないからと言ってそれを今覆すこともできんさ。それに確か月1でテストがあったはずだその時に評価を改めさせればいいだけだ」

「本当に面白い奴だな王真君がライイエローに上がってくるのを楽しみに待ってるよ」

そう言って三沢は、自分の寮へ歩いていった。その時王真は口の両端を吊り上げニヤリと笑う。

「……その必要はないさ待ったところでそちらに行くことはないからな……さて十代、翔俺たちも寮に行こう」

相変わらずボロいというか風情があるというかまあ俺は好きだぜ

少なくともあんな城みたいなダツセエブルー寮には入りたくないね隣で十代はしゃいでるし眺めが良いのは同感だな。

「俺は一人部屋みたいだな気が楽だよ」

部屋に入ると段ボールが積まれている王真がアカデミアの人たちに届けてもらった表向きは水のペットボトルが大量入った段ボールとしてちなみに嘘は言っていないこの中の二つ三つは実際水である。清涼飲料水をあまり好まないその為水ばかり飲んでいた。

そんな事を思案していると隣の部屋からデスコアラ〜と叫び声が聞こえた……ああ隼人との初対面の反応だったなまあコアラに見えるから仕方ないか……さてそろそろ現実逃避は止めようか机のとなりのスペースに白い甲冑の様な鎧を身に纏った男が立っているがもしや……

「お前もしかしくなくてもセイクリッド・プレアデスか？」

白甲冑の男は頷くそしておもむろに手を掲げるとセイクリッドのエクシーズモンスター達が現れ王真の前で片膝をつき先頭のプレアデスが立ち上がる

「私達が見えるのですねマイマスター」

「ああはつきりとなまさかお前達はデュエルモンスターの精霊か？」

「はい、今まで私はずっとマスターの側に」

「なあプレアデス俺の部屋に精霊はどれだけいる？まさかデッキの

数だけいる訳じゃ……」

『いえ、現デツキの数だけ……ですマイマスター。しかしながら目視出来るほどの力を持った精霊はあまりいないようです』

「ふむ……そうかあまりいないってことは何人かはいるって事だな」

『はい、マイマスター』

「ん、ありがとうなプレアデス」

しかし何故精霊が見える少なくとも今までは見えてなかったはずだ神様にコールしてみようそうすれば解るかもしれない。

「王真、約束通りデュエルしようぜ！」

取り出した携帯をしまい急に入ってきた十代に目を向ける。プレアデスは気配を感じたのか十代が入ってくる前に姿を消した。

「十代、入ってくるなどは言わないがせめてノック位はしてくれないか？いきなり音がするとビックリするんだ」

入ってきた瞬間ビクリとしたのは内緒だ、十代を睨んでおこしかし羽の生えた茶色い毛玉が飛んでるね。

「ああすまんなちと荷物の確認をな」

「こんなに大量の段ボール何が入ってるんだ？」

「全部水だよ。俺は水が好きなんで……デュエルなら学校のデュ

エル場でやらないかあつちの方がテンションが上がる主に俺のな

「そつだなせつかくだ行こうぜ王真」

エクシーズデッキを持って部屋を出る、デュエル場に行くときにデュエルモンスターズの精霊についての話をしようと思ったが寮を出てすぐに翔がついてくる翔いわく、アニキについていけない弟分がいるもんかだそうで若干落ち込み気味だが。まあしかし原作では十代と翔がデュエル場に行くはずだし。

「時に翔暗い顔してるがどうかしたか？大体見当はつくがなオシリスレッドが落第ギリギリの集まりだってデスコアラさんにも言われたからだろうと予想しよう」

「何でわかるのさ」

「さあわからないでか、翔は感情の起伏が顔に出やすいみたいだからなそれにな……まだなにもやってないのに諦めるなよ」

「そつだぜ翔王真の言う通りだだいたいまだなにも始まってないだろ」

「始まってから考えりゃいいんだよ……つと十代待てどこに行く」

「向こうからデュエルの音がするんだよ」

王真は靴底にローラーブレードをつけて十代を追いかける実はこの靴は王真自作でありローラーブレードをつけたり外したりできる靴なのだ……！

「たしかこっちの方から聞こえたんだ……匂っぞデュエルの匂いだ」

「デュエルの匂い……わかるか翔？」

「そんな匂いしないよ王真君……」

「だよなあいつはどんな鼻をしてんだよデュエルセンサーでも埋め込んでんじゃねえのか」

「うお〜スッゲー王真早くデュエルしようぜ」

十代がこっちを見て手招きしているやれやれと思いつつながら十代のもとに行くが後ろの方にいろんな意味で嫌なものが見えた。

「お前らここは、オベリスクブルーがデュエルする場所だ。オシリスレッドの来る場所じゃないぞ上を見る」

言われた通り十代、俺翔は上を見るとオベリスク顔を型どった紋章の様な物がはまっている。

ああそういえばそんな設定もあったなあだがここ以外でデュエルしてる描写は一切見てない気がするな。気のせいかもしれないが。

「そうなのかじゃあお前俺とデュエルしようぜ」

十代は万丈目の取り巻きの青髪で眼鏡をかけた奴を指差して言う、すると二人の取り巻きは笑い出す。

「鬱陶しいクソツタレどもだなその口縫い合わせて喋れなくすんぞコラ……だなんて口が裂けても言えないよ」

「王真君しつかり口に出てるッスよ」

「なんだとお前！……どこかで見たことがあると思っただらこいつら」
「万丈目さんクロノス教諭勝った110番と姑息なデッキで勝った111番ですよ」

眼鏡と顎の二人が万丈目を呼ぶと階段から降りてくる万丈目、明らかにこちらを見下している目だなありや。そのエリート（笑）のプライドを粉々にして上げたいね。

「あ……えと俺遊城十代よろしくな……んであいつは？」

あ今ムツとしたイラツとしたんだろうね今、器が小せえな。

「お前万丈目さんを知らないのか！？同じ1ね……」

「つまるところ中等部の猿山の大将が高等部に上がっても一番だと信じて止まない可哀想な蛙ちゃんよ」

万丈目がこつちを睨んできたおお怖い怖い蛙に睨まれた蛇ってな。

「おい王真そいつはおかしいぞ……だってこの学園の一番は俺だろ」

「待てよ十代、まだ俺とやってないだろう？一番とまではいかないがまだ戦ってない相手を下に見るのは感心できんぞ」

「ハハハハドロップアウト組のオシリスレッドが身の程をし」

「ビークワイエット騒ぐな諸君……そいつはお前達よりやる手を抜

いたとはいえクロノス教諭を倒したんだそのバーン小僧はともかくな」

「おおっと十代はともかくとして俺に対する評価は低いね」別に構わんが」

独り言の様に言っていると真横では十代が実力さ、とドヤ顔で言ってる確かにこいつの引きは運じゃないからな。

「あなた達何してるの」

おおう天上院さんのお出ましですな最初の頃は万丈目を毛嫌いしてたのにねまあ理由も理由だからな」つと、万丈目が礼儀知らずどうこう言ってたが気にする事もないさ20も年下に礼儀がどうのと言われてもな……。

「あいつらろくでもない連中なんだから」

「みりゃわかるさ見当違いのプライドを持ちそれでいて相手を見下す。本当のエリートは相手を気遣う心とけしてそれを自慢せず謙虚にするものさ」

天上院さんが驚いた目で十代と俺を見ている十代は確か自分に一目惚れがどうか言ってたな、しかし俺が見られるのはどうということだ？変にオッサン臭いこと言ったから不思議がつてるんだろきつと。

笑った、もしくは笑われたこいつなに言ってるんだろ的に笑われた普通なら十代のはずだけど俺が笑われた感が半端じゃねえ。

「レッド寮の歓迎会ももうすぐ始まるわよ」

「いつけね戻るぞ翔、王真……そっぴやあんだ名前は？」

「天上院明日香」

「俺遊城十代よろしくな」

走る俺、翔、十代。俺の場合は滑ってるをだけでもね、そんな中もうすこしで寮に着く辺りで翔が話しかけてきた。

「その靴さ……寮を出る時ローラーなんかついてなかったよね、ハアハア……」

「ローラーを取り外しできるように作ったんだよこれの方が走り早いからな」と

歓迎会が始まるまで十代達の部屋にお邪魔してデスクアラさんと前田さんちの隼人くんに挨拶をした。確かにデスクアラに似てるなと思いつつ見えてたせいで隼人くんには怒られたのは内緒だ。

そして歓迎会……まあ酷いとは思っていたが実際に直面すると凄まじいな。白米と豆腐しか入ってない味噌汁、それにたくあんと焼きメザシ。栄養バランスがどうこの問題じゃないむしろカロリー事態が少ないと思うまあ晩飯はあまり食べないのが当たり前だがね。寮長の大徳寺教諭が来る前に十代がもう食べ始めているこの子は本当にもう……。

「おい、十代まだ寮長の挨拶が済んでないだろうもう少し待てないのか？」

「そうッスよまずいッスよ」

「そうか美味しいぞ」

「その不味いじゃねえよ上の人間が喋ってたらとりあえず聞く、常識だぞ」

「小さいことは気にしないのじゃ」

いつのまか後ろに大徳寺教諭がいた気配がわかりにくいなこの教諭。

「寛大な人で良かったなじゅうだ……って聞いてねえし」

十代はやっぱり人の話を聞かずに晩飯を食っていたのだった……。

……

……

……

「ふう……まあ朝昼とまともな物を食って足りない栄養を取ったときや不摂生にはならんだろっさ」

散々万丈目を挑発したが挑戦状はどつちに来るのかねえまあどつちに来てもいいようにこつちのデッキにしよう。

「すまん、もしかしたら出ていくかもしれないから留守番を頼めるかい？ プレアデス」

『仰せのままに、マイマスター』

留守番をプレアデスマかせたところでPDAがやかましい音をたてる。

『やあドロップアウトボ……』

「うぜえ」

どうせ言いたいことはわかってるんだ聞く必要は無いさアンティデュエルするんだったな確か今夜0時だったな。

そして時は過ぎて夜の0時デュエル場の入り口に近づくと翔達の声が後ろから聞こえる。

「挑戦されたら受けるのが男ってもんだろ」

「全くの同感だな十代、しかしお前も呼ばれたのかてつきり俺一人呼ばれたのかとっていた」

「よく来たな110番とバーン小僧」

「デュエルと聞いたら来ない理由は無いぜ」

そう言って十代はリングの上が上がっていくその対面には万丈目この構図だと……。

「なあ俺必要なくね？あいつらがデュエルするなら俺の相手は誰がすんだよつまんねえ」

「心配無用だおい相手をしてやれ」

出てきたのは眼鏡の方だてかこいつデュエルシーンが一度でもあったか？デツキが一切わからん。

「まあいいさ相手にとって不足は無い、ブルーのエリートさんの実力を見てみたいもんだね」

「ほざけ卑劣なデツキを使うドロップアウトのオシリスレッドなんかが俺に勝てると思うなよ！」

「デュエル!!!」

「荒野の女戦士を攻撃表示で召喚更に手札抹殺を発動俺は四枚捨て四枚ドロ―してターンエンド」

眼鏡 ライフ4000

手札 四枚

モンスター 荒野の女戦士1

魔法・罫 無し

「俺のターンドロ―」

さて先ほどの手札抹殺で良い感じに墓地が肥えたなそれに相手の伏せは無い攻撃のチャンスだがなあ……まあいいや。

墓地に落ちたカードは雛、蘇生、真紅眼の飛竜が二枚と黒竜だ。

「手札から名推理を発動このカードは相手がレベルを宣言し俺はデ

ツキを上からめくる最初に出たモンスターのレベルが当たってればそのまま墓地へ、外れれば特殊召喚だ、それ以外の魔法・罫は墓地へ送られる。さあレベルを宣言しな」

「レベル8だ」

「いいだろうまずは一枚目リビングゲットの呼び声、二枚目サイクロン、三枚目……残念だったなレベルは7真紅眼の黒竜だ現れよ！」

「なっ……真紅眼だと何でそんな超レアカードをお前が！それにお前バーンデッキじゃないのか！」

お〜お〜驚いてる驚いてる面白いなそう言えばレアカードだったなこれバニラなのに。

「当たったんだよ偶然ね後デッキがあれだけと思うなんてそれがエリートさんの実力かい……ハハ浅はかだな続けるぞブリザードドラゴンを攻撃表示で召喚」

青いつるつるしてそんな鱗と爪が伸びて羽になっているトカゲみたいなのドラゴンが現れる。こいつを見ると某ハンティングゲームに出てきそうな気がするの俺だけかな。

「バトルブリザード・ドラゴンで荒野の女戦士を攻撃」

眼鏡 ライフ4000 3300

「ぐっ……荒野の女戦士の効果発動戦闘によって破壊され墓地に送られた時デッキの攻撃力1500以下の地属性・戦士族モンスター一体を攻撃表示で特殊召喚する。現れよ荒野の女戦士！」

「続けて真紅眼の黒竜で荒野の女戦士に攻撃、黒炎弾！」

眼鏡 ライフ3300 2000

「再び女戦士の効果発動荒野の女戦士を特殊召喚！」

さて半分は削れたがまずいなモンスターを残してしまったな恐らくは地属性戦士族デッキだろう。

「俺はこのままターンエンドだ」

王真 ライフ4000

手札 五枚

モンスター 真紅眼の黒竜、ブリザードドラゴン

魔法・罫 なし

「俺のターンドロウ手札からマジックカード死者蘇生を発動墓地の荒野の女戦士を蘇生そして二体の女戦士を生け贄にギルフォード・ザ・レジェンドを生け贄召喚！」

「ギルフォードザレジェンドが召喚に成功した時墓地の装備カードを任意の数をフィード上のモンスターに装備できるギルフォードザレジェンドに伝説の剣、神剣フェニックスブレード、団結の力を装備」

レジェンド 2600 4000

「行けギルフォードザレジェンド、ブリザード・ドラゴンを攻撃レジェンドオブソード」

ブリザード・ドラゴンに巨大な剣で切りかかるレジェンド、ドラゴンはかわし続けるドラゴンだが次第に動きが遅くなりレジェンドに切り伏せられる。

王真 ライフ4000 1800

「ハハハハ俺はリバースカード一枚セットしてターンエンドだ」

眼鏡 ライフ2000

モンスター ギルフォードレジェンド

魔法・罠 伏せ1伝説の剣、フェニックスブレード、団結の力

ちっまずいな攻撃力4000か、このデッキは全体的に火力がそう高くはないだが、突破口はある、アレが引ければいい。

十代の方はどうなってるフレイムウィングマンが奪われてスパークマンが地獄戦士を破壊したどころかもうすぐガードマンが来る、つか天上院さんいつのまかいたのか。まあ十代を見に来たんだろう。

「俺のターン、手札断殺を発動お互いは手札を二枚墓地に送りデッキから二枚ドロロー！」

来た！これでいける！

「手札から竜の渓谷を発動手札一枚を捨てデッキからドラゴン族モンスターを墓地に送る」

「なんだもう勝てないと知って自暴自棄にでもなったかならばいっそサレンダーしたらどうだ」

「ハッ！言ってるまだ俺のターンは終わっちゃいねえ手札からスタンピングクラッシュを発動、セットカードを破壊し500ポイントのダメージを与える！」

眼鏡 ライフ2000 1500

「更に真紅眼の黒竜をゲームから除外し現れよ黒き鋼の龍レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚！」

「攻撃力2800かなかなかだが俺のレジェンドには敵わないぜ」

「もちろんこれで終わりじゃねえさダークネスメタルドラゴンの効果により墓地に存在する真紅眼の黒竜を特殊召喚」

「なんだってさつき除外したはずじゃ」

「お前のありがたい手札抹殺のおかげさ！俺は真紅眼の黒竜をリリースし現れよ真紅眼の闇竜！このカードは墓地に存在するドラゴン族の数×300ポイントプラスされる墓地のドラゴンは9枚よって攻撃力は……」

真紅眼の闇竜 2400 5100

「こっ攻撃力5100だとそんな馬鹿な」

「さあ派手に燃え尽きる真紅眼の……」

「っ！ガードマンが来るわ、アンティールは校則で禁止されてる

し時間外に施設を使ってるし、校則違反で退学かもよ！」

「ちつ命拾いしたなエリートさん……おい十代生徒手帳云々の前にさっさと逃げっぞ決着の前に退学になっちゃ元も子もねえ」

王真はリングに登って十代を引っ張りながら運んで行くのだった。

……

……

……

「全く世話のやける人たちね」

「ちつ余計なことを（しやがって）」「」

「まあまあ二人ともありがとう明日香さん」

「どう？オベリスクブルーの洗礼を受けた感想は？」

「まあまあかなもう少しやるかと思ったけどねあのまま続けたら勝つてたぜ」

「そっちはどうだった」

「少し危なかったがまだまだだなあそこでアレが引けてなくともしのげたが貫通付与の装備魔法があったら負けてたな……時に十代最後何を引いた？」

「こいつさ、こいつでフレームウィングマンを蘇生させて俺の勝ちさ」

意気揚々と見せたるは死者蘇生のカード、王真はそれを見て手で顔を覆った。

「十代、フレイムウイングマンは融合召喚以外では特殊召喚できないぞテキストの最初の方をしてみる」

「……ああ！ほんとだじゃあ俺さっきのデュエル負けてたのか」

「や、クレイマンを守備で蘇生しておけばまだわからないが恐らくはまだ決着は着かなかったろうさ」

「そっか、そうだよなやつぱりあのまま続けたら俺が勝ってたんだ八八八寮に帰るぜ王真、翔」

「アニキ〜待ってよ〜」

「まったく底抜けのデュエル馬鹿だなあいつは」

「待って、あの場合の十代からどうやって勝算を導いたというの？」

「アイツの引き次第さ今となってはわからんよ想定するならばハネクリボーで凌ぎ、次のドロウでバブルマン、二枚引き融合または融合を持ってくるカードが強欲な壺、戦士の生還でアイツの勝ちだよ」

そう言い残して王真は走った寮に着いたあと十代に引いてもらったら案の定その引きだったつくづくふざけたチートドロウにイライラく王真だった。

続く

荒野の女戦士 効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1100 / 守1200

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下の戦士族・地属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

手札抹殺 通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

名推理 通常魔法（制限カード）

相手プレイヤーはモンスターのレベルを宣言する。通常召喚が可能ならモンスターが出るまで自分のデッキからカードをめくる。出たモンスターが宣言されたレベルと同じ場合、めくったカードを全て墓地へ送る。違う場合、出たモンスターを特殊召喚し、それ以外のめくったカードは全て墓地へ送る。

ブリザード・ドラゴン 効果モンスター

星4 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻1800 / 守1000

相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターは次の相手のエンドフェイズ時まで攻撃宣言をする事ができず、表示形式を変更する事もできない。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

死者蘇生 通常魔法（制限カード）

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

ギルフォード・ザ・レジェンド 効果モンスター

星8 / 地属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2000

このカードは特殊召喚できない。このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する装備魔法カードを可能な限り自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族モンスターに装備する事ができる。

神剣 フェニックスブレード 装備魔法

戦士族モンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力は300ポイントアップする。自分のメインフェイズ時、自分の墓地に存在する戦士族モンスター2体をゲームから除外する事で、このカードを自分の墓地から手札に加える。

伝説の剣 装備魔法

戦士族のみ装備可能。装備モンスター1体の攻撃力と守備力は300ポイントアップする。

団結の力 装備魔法

装備モンスターの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体につき800ポイントアップする。

手札断殺 速攻魔法

お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロウする。

竜の渓谷 フィールド魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

自分のデッキからドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る。

スタンピング・クラッシュ 通常魔法

自分フィールド上にドラゴン族モンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。フィールド上に存在する魔法・罫カード1枚を選択して破壊し、そのコントローラーに500ポイントダメージを与える。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン 効果モンスター

星10/闇属性/ドラゴン族/攻2800/守2400このカードは自分フィールド上に表側表示で存在するドラゴン族モンスター1体をゲームから除外し、手札から特殊召喚できる。1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札または自分の墓地から「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン」以外のドラゴン族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚できる。

真紅眼の闇竜 効果モンスター

星9/闇属性/ドラゴン族/攻2400/守2000このカードは通常召喚できない。自分フィールド上に存在する「真紅眼の黒竜」1体をリリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき300ポイントアップする。

アンティデュエル激突 十代VS万丈目（後書き）

今晚わ大禍時悪です眼鏡さんのデュエルシーンがなかったので適当に作ってみました。

オリジナルの展開になるはずなのにオリジナルが作れるほど頭が働かないです。

カードの詳細を一番最後に書いてみましたけどどうでしょうやっぱり出てきた時に書いた方がいいかな？アドバイス、感想待ってます。

次回予告

ある日の夜翔を誘拐したとの音声が届く返して欲しくば女子寮の裏までこられたし、だそうだしかもご丁寧に俺まで指名ときたまったく迷惑な話だよ。

次回、遊戯王GX転生者は我が道を行くー 覗きと痴漢は重罪だ！ さあ次回も派手に行こうぜお楽しみに

覗きと痴漢はやってないなら堂々としてよっせ（前書き）

今晚は、今回新しいオリキャラがでます後視点変化をしてみましたがどうでしょうそれではどうぞ。

覗きと痴漢はやってないなら堂々としてようぜ

王真side

おはようございます、黄衣王真です。只今行動にてクロノス教諭のカードの種類についての講義が行われています。明日香がおおまかな種類を説明したところで、フィールド魔法についての説明をせよとの事で。

そういえば翔は上がり症だって言ってた気がする……あ、やべ欠伸した。

「よろしい、引っ込みなさいーノ基本を答えられないとは流石はオシリスレッド、驚きでスーノそれではシニョール黄衣、あなたーモフィールド魔法についての説明を試してみるノーネ」

「フィールド魔法は、発動中常にお互いのフィールドに干渉し続ける魔法カードであり、種族強化を行う「山」や「海」、属性強化を行う「シャインスパーク」や「デザートストーム」、発動していれば何度でも効果の使える「フュージョンゲート」や「死皇帝の陵墓」、そして前述とは異なり、自分にのみ恩恵を与える「竜の渓谷」や「暗黒界の門」などがあります。カードによっては相手を助長してしまう事もあります、種族がバラバラでも属性が同じなら採用の価値はあると思われれます」

「わ、わかりませータ、もういいでスーノ」

うおう、あからさまに嫌そうな顔してるよクロノス教諭、多分ドロップアウトの癖に生意気だ的な事を思ってるんだろうな、俺は途

中で寝ただけで特に座学が悪いって訳じゃないんだがなあ、まあその点は神様に感謝だね……ここで「暗黒界の門」や「竜の渓谷」について突っ込まれなくてよかったよ、まだ存在していないカードだからね。さてもう一步クロノス教諭を煽っておくかな面白そうだしね。

「まあどちらにせよ知識と実践は違うからな、なあ十代？」

と王真は十代に目配せする、何か言っとけと言わんばかりの目で、すると十代も乗り気のようにだった様で。

「確かに実践とは違うよな、だって俺もオシリスレッドだけど先生には勝ってるし」

始めてみたよ悔しい時にハンカチ噛んで引つ張んのハハツ、セブンスター前のクロノス教諭は大嫌いなんですね、マトモになるまでとことんイライラさせてやるよ。

「クツクツクツクツ」

「……なんか王真君が怖いッスよアニキ」

「そうか？いつもと変わらないと思うぞ」

錬金術、体育の授業、今更だがデュエルアカデミアはデュエルの科目があるだけで、ほかは普通の高校だ。他の必修科目は勿論あるし今みたいに体育の授業なんかもある、さっきの錬金術みたいに明らかにおかしい科目もあるにはあるけど……気にしなくてもいいだろう。何度か英語の授業もあった生前では英語は壊滅的ではあったが、こちらの世界ではある程度はマシになってる……助かった。

「……翔がいねえなどうしたんだアイツ」

「おかしいな翔のやつ何やってんだ」

「心配だがそう大変な事にはなつてないだろうなんとなくそんな気がする、少ししたら急いで来るだろうさ」

そんな話をしつつ、この前のデュエルの話をしていたら翔が歩いてきた急ぎもせずにもかもしかない顔をしてきた。ああん？最近だらしねえな！とか言つて、ケツでも叩いてやるうかと思つたがやめた、このイベントは覚えがある。たしかラブレター事件だったな、まあ帰つてきたあたりでしょんぼりしてるだろうね。

王真は体育の授業後空腹と水分補給の為に購買部に来ていた。とにかく眼を引くドローパンの籠にカードパックの販売コーナー、どれにどんなカードがどういう括りでパックに入ってるのか全くわからん売り場を通り過ぎる。

ふむ……女生徒がブルー男子に囲まれてるように見えるな……多分気のせいだろう。さて自分の明らかに酷いドローを拝むためにドローパンでも買ってみますかね。

王真は適当に二つドローパンを掴み購入、チラリとさっきの場所を見てみる、さっきと変わりはないようだ単純に話してるだけにも見える。茶色っぽいセミショートの髪が横に揺れてる、首を横に振っているのは断っているのかなんのか……。

……ああの子はたしか宮田さんちのゆまちゃんだったかなタツグフォースの一般生徒として出てきてたね。……少し会話を聞いて

芳しくない状況なら助け船でも出してあげますかねドロopanも二つあるしね。

断片的に聞こえる会話を整理すると、宮田さん誰かを待つ　ブルー男子（複数）がナンパ？をする　宮田さん断りつつ誰かを待つ　なお食い下がるブルー男子　宮田さん王真が見ていることに気付いてこっちを見ている　王真助け船をだそうとアイコンタクトを送る　今ここ。

さて助け船でもだしますか、ドロopanを一つ片手に持ちてにこやかに近づきつと……。

「すまない待たせたドロopan選んでたら遅くなった」

「……？あ……いえ、そんなに待ってないので大丈夫ですっ」

そう言つてドロopanを投げ渡す王真、ブルー男子がポカーンとしているが我にかえつたブルー男子が王真に突っかかってくる。

「おいお前行きなり出てきてなんなんだよ」

「なんなんだ、と言われてもなこの子の待ち人だが？」

ブルー男子がこっちに詰め寄るしかも結構ご立腹のご様子で。

「ふざけるな！彼女が待つてるのはお前みたいなオシリスレッドなんかじゃないんだよ！」

「はあ……事実なんだから仕方ないだろう？それとレッドだからってブルーの人間に、会っっちゃいけないなんてことはないだろ」

「うるさいうるさいデュエルだお前みたいな屁理屈ばかりをこねるやつが大嫌いなんだ」

ブチンと王真の中で何かが切れる音がした、名の無いブルー男子は王真の最も嫌いで最も殺意を抱かせる言葉を言ってしまったからである。

「いいだろう、かかってこい悪いが俺もお前みたいな、他人を見下す事しかできないゴミクズのようなエリート意識持った奴が、ぶち殺したくなるほど嫌いなんだよ」

「デュエル」

王真 side out

ゆま side

あうう……私のせいで大変な事に……あううどうしようブルーの人とのデュエルが始まっちゃうよ止めなきゃでも……あうう

「デュエル」

「俺のターンサファイアドラゴンを攻撃表示で召喚更にリバーサイドを二枚セットしてターンエンドだ」

ブルー男子 ライフ4000

モンスター 1

魔法・罫 2

「お前のせいで、すごぶる機嫌が悪いたただでは終わらせないから覚

悟しるE・エマーゼンシーコールを発動、デッキからE・HER Eエアーマンを手札に加える」

あのレッドの子HEREデッキ……もしかしたらあれがクロノス先生に勝ったって噂の遊城君なのかな？

「融合を発動、スパークマンと沼地の魔神王を融合しE・HEROアブソルトzeroを融合召喚」

「かかったな！リバースカードオープン奈落の落とし穴だ、このカードは相手が攻撃力1500以上のモンスターを出したとき破壊し除外するんだぜ」

「……手札から速攻魔法マスク・チェンジを発動アブソルトzeroをリリースし同じ属性のM・HEROアシッドを变身召喚、アブソルトzeroがいなくなったことにより奈落の落とし穴は不発に終わる、そしてアブソルトzeroとアシッドの効果発動、アブソルトzeroの効果により相手のモンスターを全て破壊、アシッドの効果により魔法・罫を全て破壊だ」

フィールドに白いもやが広がりサファイアドラゴンが足下から凍り付きそのまま砕け散る、散らばった氷がセットカードに刺さり破壊される。

「さてもう一押しだなミラクル・フュージョンを発動墓地のアブソルトzeroとスパークマンをゲームから除外、E・HEROシヤイニングを融合召喚、そしてエアーマンを召喚、バトルだ一斉攻撃」

「ウソダーコンナコト」

本当に嘘みたいワンターンキルなんて初めて見た、けどあの子少し怖いかも。怒気……というかオーラが凄い。

「無様に這いつくばって消え失せる」

そう言っ歩いて行っちゃったあうついていかなきゃ。

ゆまsidedout

王真sided

イライラしていた、反省もしていないし後悔もしていないむしろすつきりしたたまには一瞬で削りとするデッキを作ってもいいんじゃないかな、まあ作るにしてもどいつを主点に置くかをきめる必要があるね。……何かを忘れてる気がする、なんだったか……ああそうだ宮田さんに助け……しまった置いてきちまったどうしょ。

「ま……待ってください〜ハア……ハア……追いついた」

「……すまないちょっと頭に血が上ってた、つかいらなかったか？」

「いえ、ありがとうございますあの人付きまどってきて……その……」

「まあその……なんだ、ツレの人に連絡しといた方がいいんじゃないか、誰かを待ってたんじゃないか？」

「はい……大丈夫です連絡はしておきましたので」

「そうかい、ちなみに聞くが具なしパンは好きかい？」

「好き……ですけど？」

「どろぞろいであげるよ」

王真は自分が持っていたドロパンも投げ渡して走って行った。

王真 sided out

明日香 sided

ゆまったら購買部で待つてるって言ったのに見当たらないじゃないかい……それにしてもこの人だかりは何？

「ちょっといいかしら？ここで何があつたの？」

明日香は近くにいた笑ってる女生徒にきく事にする。

「明日香ちゃん、やくここでレッドの子とブルーの子がデュエルしてたんですよ、凄いデュエルでしたよなんせワンキルですよワンキルしかもマイナス3600のオーバークルしかも最後に食らった攻撃できりもみ回転しながらぶっ飛んでいったのは抱腹絶倒の爆笑ものですよあれ」

そう言ってブルーの女子はまた笑い出した、一区切り笑い終わるとまた話を切り出す。

「ところでゆまを見なかった？少し待ち合わせをしていたんだけど

……」

「あゝゆまちゃんならここでデュエルしてたレッドの子を追いかけ
て行っちゃいましたよ、でもあの子の事だから連絡は来てるんじゃないかな？」

「そうね……あら？PDAにメッセージが……ゆまからだわ今は正
門前にいるみたいねちよつと行ってくるわありがとじゃあね」

明日香 sided out

???? sided

忙しそうだな〜明日香さん、だけどHEROデッキを使ってるの
って十代君だけだよねそれにあれは漫画版HEROだったし……も
しかしたら私以外のアレ（・・・）がいるって事だねいや〜早くも遭
遇ですか。

「……確か日にち的にはあのイベントがあるはずちよつとカマをか
けてみたりしようかな〜さっきのレッドの子が、あれならデッキも
多分……明日香ちゃんが興味を持つはず……」

何やらブツブツと呟き時々気味悪く笑う女生徒を周りの生徒が引
いていたのを少女は知らなかった。

???? sided out

明日香 sided

「ゆま、いつたどこにいたのよ？購買部に行っても見当たらない

どころか別の所にいるなんて……」

「あつ……ごめんなさい明日香さん、それとすみません実は……相談したかった事も解決してしまつて」

「解決したつて購買部でのデュエルの事？」

「はい……そのをデュエルしてたのが問題の人で、デュエルの後私の所に来て、俺が悪かったもう二度と付きまったりしないって謝罪に来てくれたんです」

「そう、なににせよよかったじゃない」

ゆまは、はいつと元気よく返事をしてブルー寮に戻つていった。

明日香 sided out

王真 sided

しまつたな結局ドロパンを二つともあげてしまつたし……まあでも寮の食事はもうすぐだし我慢するかな、そういえば神様に精霊の事とか聞いてなかつたな十代のせいですっかり忘れてたよ。寮についたら連絡するかな。夜までは特にイベントも無いし……ないよね？

「やゝオシリスレッドのHERO使い君ハジメマシテ」

……見たことの無いイベントが発生しましたどうしましょう……見なかつた事にしよう、怪しいものはスルーにかぎる。

王真、華麗にスルーして寮の階段を登る何故かついてくるブルーの女生徒、自分の部屋に入るや否やドアを思いつきり閉める。ドアの向こうからみぎゃっ！とドアにぶつかった音と奇妙な泣き声をスルーして鍵をかける。すぐさま携帯を開いて神様にコールする。

「もしもし神様？今すぐあんたを張り倒したいんだけどどうしたらいい？」

ドアをドンドン叩く音がとても喧しいが今はそれどころじゃない、少しするとどこからか子供用のラッパの音が増えた……天の岩戸に引きこもった神様かよ俺は。

「張り倒されたくないのうそれで本題はなんじゃ？」

「とりあえずは何故俺に精霊が見えるんだよ」

「ステイタスじゃろ？そつちの世界じゃ、わしも今見てるんじやがな遊戯王GX、精霊が見えんとやってけんぞいだから見えるようにした」

「そうかいわかったよ精霊が見えるからと言って困ることは出てこないしな、何か聞きたい事があつたらまた連絡する」

ドアを殴る音がなくなったしこちらの用件も終わったのでさっきの不審者もいなくなっただろうしそろそろ鍵を開けてもいいな。

「やっつと開けてくれましたね」

すぐに閉めるだつて目の前に居たんだもの、天の岩戸作戦に失敗して帰ったものだと思つたよ。

「帰れ不審者、お前のような知り合いはいない」

「ちよつち待ってよそんなつれない事言わないでよ、こんなに可愛い女の子が待ってるんですよ男なら部屋に引つ張りこんであゝんな事やこゝ……」

「帰れ変質者、白昼堂々と変態トークに付き合う気はない」

「厳しいなゝ……おい、デュエルしろよ」

変質者の声が一瞬鋭くなった気がした……もしかしくなくてもこいつ……招き入れてもいいかもしれないがネタの一つくらいは言ってやろうか。

鍵を開けてドアを開いて開口一番で王真は言う。

「アナタハ、神ヲ信ジマスカ？」

「アツハハハハ片言で……片言でっブツククククク」

「おいおいこんなの今時の中学生でも笑わんぞ、でお前は神様を信じるのか？」

「ククククク……ふう、そもそも神様ってどの神様？色々いるじゃない三幻神？三邪神？地縛神？機皇神？神様なんてたくさんいるじゃない」

「ああうんもうお前さんが俺と同じ境遇だっということがわかった」

「そ〜いう事ちなみに私は死因は溺死だよ」

「俺は交通事故だミンチになったしな……ちと携帯貸してくんね？」

少女に携帯を操作して神様にコールしてもらつ、王真も携帯を操作して神様にコールして携帯を借りて丁度通話口と受話口を重ね合わせて待つ。

「まだなにか用なのかの？」

「なに仕事中なんだけど？」

「……………」

「なんじゃお主はまさか死んだ命を蘇らせたのではあるまいな！」

「あなたこそ死んだ人を転生させたのね！」

重ね合わせたまま放置するまあとせそのうち話が終わるだろうが、とりあえずハンズフリーにでもしておこう。

「さてお互いの自己紹介でもするかね俺は黄衣王真、生前での年齢は20だ」

「よろしく王くん、私は万花無有生ばんかむむゆう前の歳は18だよ」

「むゆう……もしかして夢が遊ぶと書いてむゆうか？つか誰が王くんだから馴れ馴れしいぞ」

「ん〜残念遊の字が入ったら主人公格になつちゃうじゃん、漢字は無いに有ると書いてむゆうだよ、もしかしたら（むあ）って読めちゃうかもよ、いいじゃん馴れ馴れしくても王くんって呼ぶ代わりに

私の事を有ちゃんって読んでもいいんだよ?」

「駄目だこいつ思考がかつとビングしていやがる、ハア……聞きたいんだが今までシンクロやエクシーズは使っていないだろうな?」

「使ってないよ第一に使ったらパニックになるじゃない」

「まああなたが月1のテストがあるだろうその時にシンクロ、エクシーズを解禁する」

「え、何でさ、さっき言ったじゃんパニックになるって」

「言ったけどなデュエルアカデミアだぜ?一番最初の反応は恐らく驚きと歓喜であって、パニックにはならないだろうと俺は予測するよ有ちゃん」

「……自分で呼んでもいいって言ったけどいざ呼ばれると少し恥ずかしいよ王くん……その言い分は間違っていないけどそう上手く行かない?」

「ならそうやって呼ばせなければいいのさ、それにそうしなければこの先もう勝てなくなる、今でこそ勝っているもの、もうすぐ追い抜かれるだろうアイツらの成長スピードには眼を張るものがある、シンクロエクシーズを使ってやっと対等と言ったくらいだ、もともと勝つためにやっている訳ではないが学校にいるわけだそこその成績を納めておきたいからな」

「そ、そういうもんですかね。王くんはやっぱり上の寮に아가って行きたいと思う?」

「や、あんなダッセエ寮になんざ入りたくもねえよ、単純にそう思うだけさこの世界は俺達以外ガチデツキを作ってるやつなんてそうはいない、だからこそ純粹にデュエルを楽しめるのさ」と神様たちの話も終わったみたいだぜ無有……どうしたこっちを見て呆けているようだ」

「え、あくちよつちねそんな考え方をしてる王くんが面白いなくて思ってたのよ」

「喧しい、まあゆっくりしていけ茶も出さずにすまんかったな今入れてくる」

レッド寮の個室にはコンロがあるお茶を入れるためなのか料理のためなのかまあそんな事はどうだっていいさ。料理をしたくても材料がないどこかから貰ってくるか自分で買うかのどちらかである。

「くんくんこのおい玄米茶ですね、私はコーヒーも好きなんですけどね」

「文句を言わないでくれ聞かなかった俺も悪いんだがな」

「クッキーですねこれもお茶のにおい、お茶尽くしだね」

「昔、作ったのが意外と好評でねこっちに来てからもたまに作ってるんだ」

「流石は35年は生きてるだけありますね三十路の貫禄ってやつですね」

「張り倒すぞお前、お前も精神は三十路だろうが」

「いいんですよ私は高校生だったんであなたは社会人でしょ？」

「うつせ、だからなんだつつんだよこつちでも向こつちでも家事全般をやつてんだよ神様はまんま家族をこつちの世界に投影しやがったからな」

「家族投影……ですかいいですね」

「……悪いな色々と」

「やゝいいですよ美味しい玄米茶とクッキーを食べれた事ですし、そろそろお暇しますよそれじゃあね王くん夜のイベントで……あ、夜のイベントとっていつでも卑猥な意味じゃないですよ」

「さつさと帰れいちいち余計なことを混ぜるな」

「じゃ〜ね王くん」

……賑やかだったなアイツ月1テストで当たらないといいな、当たつたらまず間違いなく負ける酷い程のネタじゃなければの話だが。

王真 sided out

翔 sided

もうすぐ時間だな女子寮の裏に行こつと明日香さんが僕に……エ

へへへ幸せ……

「この辺かな？」

「覗きよ〜!!！」

えっ嘘覗きもしかして僕も危ないんじゃないや……ああ囲まれちゃった。

「もう逃げられないわよこの痴漢」

両手を縛られて女子寮の中に連行される翔、縄を握っているジユンコ、隣に明日香、ももえがいる翔は自分がラブレターの事を説明する。しかしそれが偽物で十代宛であることに落ち込んで翔、そこに何故か無有が通りかかる。

「ありり明日香さんこの子？さっきの覗き騒ぎの犯人つて。駄目だぞ〜覗きはやるならもっと大胆に、正面突破じゃないと」

「覗いてないってば」

「無有、訳のわからない事を言わないでそれよりも私にちょっと考えがあるの」

そのときの翔は、ずっと無有に遊ばれていて話を聞いてはいなかった。

翔 sided out

王真 sided

「王真、大変だ王真！」

「聞こえてるよ、でどうしたよ翔が誘拐されたか？まあ俺のこのPDAにもそれが来てるんだがね」

「行くよな王真」

「もちろんだとも、友人をほっとけやしないな」

とそういつわけで十代と王真が女子寮にたどり着く予想通り手を縛られている翔、明日香ジュンコ、モモエそして無有までいる。

「どづいつことなんだよ翔？」

「話せば長いような長くないような」

「つまり覗いて無いのに覗き扱いられてるってこつたね」

「そつだよ」

「まあそれを見た人間がどう思うかはわからんやな、俺なら間違いなく捕まえるがな」

「王真君はどつちの味方なんスか！？」

「もちろん翔達の味方だよ今のは俺の考えだよ気にするな」

「ねえあなた達私とデュエルしない？私に勝つたら覗きの件は多目に見てあげる」

「だそつだ十代デュエルしろつてさ」

「え？俺がやっていいの？」

「もちろんだともさ頑張りな」

「まったくもう王くんは自分がやりたくないからって十代君に押し付けて」

「押し付けたんじゃない譲ったんだよ言葉を間違えるな」

「あれ？王真君が仲良さげにブルーの人と喋ってるッス」

「「デュエル」」

そして終盤サンダー・ジャイアントがサイバーブレイダーを破壊して攻撃を加えるところだ。

「サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック、ヴェイパースパークー！」

さてこれで明日香のライフはゼロようやく帰れるな。ん？……無有のやつがこっち見てニヤニヤしてやがるまさか……。

「さあ次はあなたの番よ黄衣王真」

「十代が勝っただろう？俺がやる必要はないだろう」

「ちなみに王くんが受けてくれないと翔くんのやったことを王くんがやったって通報しちゃうよ」

「てめえ後で張り倒すからなクソッ相手は明日香が相手だな……か

「かってこい」

「デュエル」

「私の先攻ドロー手札から融合を発動エトワールサイバーとブレイドスケーターを融合しサイバーブレイダーを融合召喚カードをセットしてターンエンド」

明日香 ライフ4000

手札2

モンスター1

魔法・罠1

「俺のターンドロー手札からフォトン・ベールを発動、手札の光属性モンスターを三枚をデッキに戻しレベル四以下の光属性モンスターを手札に加える。二枚以上手札に加える場合全て同じカードでなければならぬ、セイクリッド・シエラタン三枚を手札に加える」

「セイクリッド……聞いたことの無いカードね」

「ちょっと王くんそのデッキはテストまで封印するんじゃないの」

「気が変わったここで解禁だ手札からセイクリッド・シエラタンを攻撃表示で召喚、シエラタンの効果発動このカードが召喚に成功したとき、デッキからセイクリッドと名のついたモンスターカードを手札に加える。デッキからセイクリッド・エスカを手札に加え、リバースカード二枚セットしてターンエンドだ」

おひつじ座が輝き白い羊の角を模した兜を被り銃を持った少年が現れ、銃からこちらに向けてカードを射出してきてそれを受けとる。

王真 ライフ4000

手札3

モンスター1

魔法・罨2

「攻撃力700のモンスターを攻撃表示なんて舐めてるのかしら普通なら守備表示で召喚するはずよ私のターンドロ、サイバーブレイダーでセイクリッド・シエラタンを攻撃！」

「トラップ発動光子化、相手のモンスターの攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分を俺のフィールド上の光属性モンスターに追加する。サイバーブレイダーの攻撃力2100をシエラタンに追加する」

シエラタン 700 2800

「地盤沈下を発動してターンエンドよ」

明日香 ライフ4000

手札2

モンスター1

魔法・罨2

「俺のターンドロ、セイクリッド・シエラタンを召喚、デッキからセイクリッド・スピカを手札に加え血の代償を発動、更にセイクリッドの星痕を発動しライフを500払い、シエラタンをリリースセイクリッド・スピカをアドバンス召喚」

王真 ライフ4000 3500

空に星座が乙女座が輝き白い甲冑と天使の羽を模した騎士が降り立ち、更に光の円を描く。

「セイクリッド・スピカの効果発動このカードの召喚に成功したとき、手札からレベル5のセイクリッドを特殊召喚する事ができる。セイクリッド・エスカを特殊召喚、そして召喚または、特殊召喚に成功したときデッキからセイクリッドと名のついたモンスターを手札に加える手札に加えるのはセイクリッド・グレディ」

空に天秤座が輝き天秤のような手をしてマントをはためかせた機械が現れる。

「おお一気にモンスターを三体も並べるなんてスゲーぞ王真」

「驚くのはまだ早いぜホントに驚くのはここからだぜレベル5のセイクリッド・スピカとエスカをオーバーレイ!!」

「『『『『『オーバーレイ!?』』』』』」

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築!エクシーズ召喚!」

湖に現れた黒い穴に黄色い光になって吸い込まれ光が爆散する。

「現れるセイクリッド・プレアデス!さらに星痕の効果発動、セイクリッドと名のついたエクシーズモンスターを特殊召喚したときデッキからカードを一枚ドロウする」

爆散した光が収まったとき白い甲冑を身にまとい剣を持った戦士

が現れるその周りには光の玉が回っている。

「ただどあなたのモンスターが2体になったときサイバーブレイダーの攻撃力は倍になる」

サイバーブレイダー 2100 4200

「悪いがここで終わらせるぜセイクリッド・プレアデスの効果発動、1ターンに一度オーバーレイユニットを一つ使いフィールド上のカードを手札に戻す、セットカードを戻せライトリバーズ！」

プレアデスは右手で球体を一つ握りつぶし、光を放射してセットカードが裏側のまま捲れ上がりそのまま消える。

「これで障害は消えたライフを500払いシエラタンを攻撃表示で召喚、これでサイバーブレイダーの攻撃力が下がる！攻撃力の上がつたシエラタンでサイバー・ブレイダーを攻撃！」

サイバー・ブレイダー 4200 2100

「これで障害は消えたライフを500払いシエラタンを攻撃表示で召喚、これでサイバーブレイダーの攻撃力が下がる！攻撃力の上がつたシエラタンでサイバー・ブレイダーを攻撃！」

サイバー・ブレイダー 4200 2100

「だけど全てが通ってもまだ100残るまだ逆転はできるわ」

「させねえんだよダメージ計算時手札のオネストを捨てて戦闘を行

う相手モンスターの攻撃力分を追加する」

シエラタン 2800 4900

「なんですって！！攻撃力4900ですって」

「さあ終りだプレアデス、シエラタンでダイレクトアタック」明日
香 4000 - 2000

両手の拳を打ち付けた後右の拳を突き上げる。

「シャアッ！！」

「負けたわでもいいデュエルだったわ、エクシーズモンスター……
変わったモンスターね」

「明日香さんがオシリスレッドに二回も負けるなんて……」

「王くんやり過ぎだよ……」

「結構辛かったただぜ、初手が荒れすぎてなフォトンベールが来てな
かったら負けてたぞ。てか途中から煽りすら入れてなかったなあ
お二人さん」

「十代君が勝っただけでも驚いてるのに王くんまで勝っちゃうし果
てにはエクシーズまでしちゃうからだよ」

「すっげえよ王真なんだよあのエクシーズってモンスターはカッコ
イイ」

「あれはまあ同じレベルのモンスターを使って出す融合を、使わない融合モンスターみたいな感じだ」

「その代わりに1ターンに一度だったり回数制限があったり或使用所が難しいカードだよ」

「へえ〜じゃあ入学試験の時に言ってた面白い物ってのは」

「ああこいつの事さどうだい面白かったかい？」

「ああワクワクしたよまだ王真とはデュエルしてないし今か……」

デュエルしようと言おうとする十代に無有が止めに入る。

「駄目だよ十代君、王くんもデュエルしたんだし疲れてるよきつと、だからさ後日にしようよね？」

「そうだな……それでお前誰？」

「さっきから王真君と仲良さげに喋ってたよね誰なの？」

「ああこいつは……」

「私はね〜万花無有っていうのよろしくね王くんとは……ポツ……あう痛い、痛いですお願い止めて王くん許して頭ガシガシ撫でるのやめて、もっとソフトに優しくしてくれたら私惚れちゃ痛い痛い痛い、更に強くなったな」

「こいつはまあ俺と同郷なんだわさ、んで出身が同じだからちと意気投合したわけよ」

王真は無有の髪の毛をグツシヤグシヤに撫で回してボサボサになったロングヘアを更にボサボサにする。

「ああ！ やつと乾かして綺麗に整えたのに王くんそれ以上やると王くんに梳いてもらうよー！」

「なら櫛を持ってこいそしたらやつてやる」

「いいの行くよ？ ホントに櫛持ってそつちの寮にいつちやうよ？」

「寮には来んなここでやつてやるって言ってるだよ」

「ちょっと待ち待ってジュンコ、モモエ明日香ちゃん櫛持ってない！？ 櫛！！ 今櫛があれば私の王くんにたいする好感度が右肩上がりどころか急上昇だよ！！」

無有はジュンコ達をみるが首を振る。

「そんなぁ……せつかく王くんが……」

「残念だがまたいずれって事だなじゃあな」

「ちょっと待ちなさい黄衣王真、あの時シエラタンを攻撃表示で出したのは光子化があったから出したの、それとも明日香さんを舐めてたの！？」

「あれは癖だよ、召喚するときには基本表側攻撃表示ばかりなんでな

そんだけだよ行くぞ十代、翔」

「お……おう最後になつたけどあんた強かつたぜ……待つてくれよ王真」

次の日の授業中も休み中もずっと無有が恨みがましく睨み続けられていたので、仕方なく髪の毛を梳いてやったのはまた別の話である。

続く

E・エマージエンシーコール

通常魔法

自分のデッキから「E・HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

奈落の落とし穴

通常罠（準制限カード）

相手が攻撃力1500以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

E・HERO アブソルトZero

融合・効果モンスター

星8 / 水属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

「HERO」と名のついたモンスター+水属性モンスターこのカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO アブソルトZero」以外の水属性モンスターの数×500ポイントアップする。このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

マスク・チェンジ

速攻魔法

自分フィールド上の「HERO」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを墓地へ送り、選択したモンスターと同じ属性の「M・HERO」と名のついたモンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

M・HEROアシッド

融合・効果モンスター

星8 / 水属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2100

このカードは「マスク・チェンジ」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードが特殊召喚に成功した時、相手フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊し、相手フィールド上の全てのモンスターの攻撃力は300ポイントダウンする。

E・HERO Theシャイニング

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2100

「E・HERO」と名のついたモンスター+光属性モンスターこのカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードの攻撃力は、ゲームから除外されている自分の「E・HERO」と名のついたモンスターの数×300ポイントアップする。このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、ゲームから除外されている自分の「E・HERO」と名のついたモンスターを2体まで選択し、手札に加える事ができる。

ミラクル・フュージョン

通常魔法

自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによつ

て決められたモンスターをゲームから除外し、「E・HERO」という名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。
(この特殊召喚は融合召喚扱いとする)

E・HERO エアーマン

効果モンスター(制限カード)

星4/風属性/戦士族/攻1800/守 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。 自分フィールド上に存在するこのカード以外の「HERO」と名のついたモンスターの数まで、フィールド上に存在する魔法または罫カードを破壊する事ができる。 自分のデッキから「HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

サイバー・ブレイダー

融合・効果モンスター

星7/地属性/戦士族/攻2100/守 800

「エトワール・サイバー」+「ブレード・スケーター」このモンスターの融合召喚は上記のカードで行えない。相手のコントロールするモンスターが1体のみの場合、このカードは戦闘によっては破壊されない。相手のコントロールするモンスターが2体のみの場合、このカードの攻撃力は倍になる。相手のコントロールするモンスターが3体のみの場合、このカードは相手の魔法・罫・効果モンスターの効果を無効にする。

フォトン・ベール

通常魔法

自分の手札から光属性モンスター3体をデッキに戻し、自分のデッキから光属性・レベル4以下のモンスターを3体まで手札に加える事ができる。2体以上手札に加える場合は、全て同名モンスターで

なければならない。

セイクリッド・シエラタン

効果モンスター

星3 / 光属性 / 獣族 / 攻 700 / 守 1900

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキから「セイクリッド」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

血の代償

永續罫

500ライフポイントを払う事で、モンスター1体を通常召喚する。この効果は自分のメインフェイズ時及び相手のバトルフェイズ時にもみ発動する事ができる。

光子化

通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、その相手モンスターの攻撃力分だけ、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスター1体の攻撃力を、次の自分のエンドフェイズ時までアップする。

地盤沈下

永續魔法

使用していないモンスターカードゾーンを2ヶ所指定して発動する。このカードがフィールド上に存在する限り、指定したモンスターカードゾーンは使用できない。

セイクリッド・スピカ

効果モンスター 星5 / 光属性 / 天使族 / 攻 2300 / 守 1600

このカードが召喚に成功した時、手札から「セイクリッド」と名の

ついたレベル5モンスター1体を表側守備表示で特殊召喚することができる。

セイクリッド・エスカ

効果モンスター星5/光属性/機械族/攻2100/守1400

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分のデッキから「セイクリッド」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

セイクリッドの星痕

永続魔法

自分フィールド上に「セイクリッド」と名のついたエクシーズモンスターが特殊召喚された時、自分のデッキからカードを1枚ドロウする事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

セイクリッド・プレアデス

エクシーズ・効果モンスターランク5/光属性/戦士族/攻250

0/守1500光属性レベル5モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事で、フィールド上に存在するカード1枚を選択して持ち主の手札に戻す。この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

オネスト

効果モンスター星4/光属性/天使族/攻1100/守1900

自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを手札に戻す事ができる。また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

覗きと痴漢はやってないなら堂々としてようぜ（後書き）

こんばんわ、大禍時悪です今回はデュエルを二回しましたが両方ともワンキルになってしまいましたどういことなの……ワンキルにならないようにデュエルを作りたい頑張ります。

実はオリキャラの名前には元ネタがあったりしますさてそれはなんでしょうってね？

今回からシンククロエクスーツが解禁されましたドンドンパフパフ
今回は月1テストの回ですよ感想お待ちしております。

次回予告 月1テスト前日になって翔が悪あがきでオシリスのポスターに祈り始めた普段から覚ええないからだよ。次回遊戯王GX1
転生者は我が道を行く1月1テストシンククロ覚醒。次回も派手にい
くぜ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8087z/>

遊戯王GX 転生者は我が道を行く

2012年1月12日01時55分発行